

バスケットピンポン競技ルール

1. ルール

- ① 公式バスケットピンポン競技は、バスケットピンポン協会規格のコートで行う。
- ② 競技は個人戦と団体戦の2種類を設ける。
- ③ 3セットを1ゲームとする。※本大会では準々決勝から
 - ・個人戦は3セットのうち2セットを取った方の勝ち。
 - ・団体戦は3人1チームとし、1人1セットずつ行い、2セットを取ったチームの勝ちとする。※本大会では1セットずつ
- ④ 審判は競技者自身が行うが、公式試合においては別に審判員をつける場合もある。
- ⑤ 3年生以下は低いコート、4~6年生は高いコートで試合を行う。

2. 得点になるポイント

- ① 正規のリターン、もしくはサーブができなかった時は、相手の1点得点となる。
- ② ヒット（打ち返した球がノーバウンドで相手のバスケットに納まること。）は、デュースになるまでは2点の得点、デュース以降のヒットは、一举に、打者側の勝利となる。
- ③ 反則は、1点、もしくはヒットと判定した場合は、2点を相手に与える。（ただし、デュース以降は2-②を参照）

3. 1セットの勝敗

- ① 1度以上のヒットを含む11点または、12点を先取した方の勝ち。
- ② ヒットのない得点は10点でストップする。（ノーヒット・テン）
ノーヒット・テンの取得者は、
 - (a)相手が10点になるまでに、1本のヒットを取れば勝ち。
 - (b)自分の勝ち点分を相手の持ち点より減点していき、相手が0点になれば勝ち。
 - (c)相手が初めから0点の時は、ヒットの有無にかかわらず勝ち。

※ノーヒット・テンの相手は、勝てば今まで通り（普通点1点、ヒット点2点）
加算していく。
- ③ 10対10になるとデュースになり、それまでのヒットは無効になる。
- ④ デュース以降は、1本のヒットか、10点を先取した方の勝ち。

4. ヒット

- ① 最初のヒットを取ったときは、自コートと同色のヒットリングを上にあげて、ヒットのある事を示しておく。
- ② ヒットは2点得点となる。
- ③ デュース以降、またはノーヒット・テンの取得者は、1本のヒットで一举にセットの勝利を得る。

5. サーブ

- ① サーブはラケットを一切使わない。
- ② 原則として、掌に球を乗せて指を曲げずに（オープンハンド）、そのまま自領コートに投げ当て、そのバウンドでネットを越え、相手コートに入れるものとする。
- ③ サーブは相手コートのどこに入れても良い。
- ④ プレーは赤コート側のサーブで始まる。2回目以降のサーブは、本大会では交互に行う。
- ⑤ ストライク（自領コートでワンバウンドしたサーブ球が、ネットを越え、ノーバウンドで相手のバスケットに納まること。）は、サーブを相手側に交代する。
- ⑥ サービスマスは相手方の1点得点となる。
- ⑦ ネットイン、エッジ（変則バウンド）はノーカウントでサーブはやり直しをする。2度続けてのネットイン、エッジ（変則バウンド）は、相手方の得点となる。

6. ノーカウント

- ① 受ける用意のできていない相手に対して行われたサーブ。
- ② サーブ球でネットイン、およびエッジ（バスケットホールを含む）に当たって変則バウンドしたもの。
- ③ 誤って、ラケットでサーブをした時。
- ④ 審判員または競技者自身により、タイムがかけられた時。ただし、呼称が正当でないと認められた場合は、相手にヒットを取られたものと判定する。
- ⑤ 不可抗力により、競技が妨げられたとき。

※ノーカウントの場合は、元のサーバーがサーブをやり直す。

7. 反則

- ① ノーバウンドの球をコート外で、ラケットタッチしたときは、相手の1点得点となる。
- ② ボールを受ける側が自コート上でバウンドする前にラケット、又は身体に触れた場合。
 - ・サーブの場合は、サーブ側に1点得点を与えた上で、サーブを相手側に交代する。
 - ・サーブ以外の場合、故意にヒットを防ごうとしたときはヒットと判定し、それ以外は相手の1点得点となる。
- ③ バスケットのなかに予備のボール等を入れた時。
- ④ ネットを越えて相手コート上の球を打った時は、相手の1点得点となる。
- ⑤ ボールインプレー中に故意にコートを移動させた時は、ヒットと判定する。

◎申し合わせ事項

○試合球について

- ・バスピンにおいてはスマール(38)を使用していたが、現在スマールは生産中止となったとのこと。H27年度大会よりラージ(40)を使用している。

○ヒットについて

- ・バスケット付近でエッジに当たっているかどうかの判定が難しいため、ノーバウンドでバスケット付近にボールが行き、エッジに当たって入った場合もヒットとする。但し、エッジに当たったボールが上に跳ね、そのボールを打った場合はインプレー（続行）とする。
(H20. 10 バスピン協会にて確認)

○サーブ時にサーブを受ける側が、コート上において自コートでバウンドする前にラケット又は身体にボールが触れた場合の取り扱いについて（※ルール変更済み）

- ・上記の場合は、サーブ側に1点を与えた上でサーブ権を移動する。 (H20. 10 バスピン協会にて確認)

○参加申込について

- ・単位子どもクラブにおいて、団体の部で出場する人数が足りない場合は、同一校区に限り子どもクラブを超えてチームを組んでも良い。
- ・単位子どもクラブにおいて、団体の部〔小学校4年生～6年生〕で人数が足りない場合に限り、小学校3年生以下の子どもが出場することができる。

※いずれの場合も、申込時に事前に申し出をすること。

また、この参加申込における申し合わせ事項は最後の1チーム等でやむを得ない場合に限る。選抜チーム編成のため（例：上手な子同士をチームにする、4年生より3年生が上手なためなど）の申込は受け付けない。

○握ってサーブすることについて

- ・低学年は反則を取らない。高学年は1回注意の上2回目以降反則として取る。（ただし、練習時指導の際は反則として教える ※H22第2回実行委員会で統一）

○サーブの方法について

- ・オーブンハンドであれば手首をひねって勢いをつけてサーブをしても良い。また、サーブする位置はネットを越えて相手コートに入ったり、台に手をつけたりしなければどこでも可。（H28. 11 バスピン協会にて確認）

○ラケットについて

- ・ラバーがついていないラケットの使用は禁止。

○「ノーバウンドの球をコート上で、ラケットまたは身体の一部でタッチしたときは、ヒットと判定する」ことについて

- ・低学年（3年生以下）はヒットをとるのではなく、1点とする。（ただし、練習時指導の際は反則として教える ※H22第2回実行委員会で統一）

このルールはデュース時にも適用される。（H29. 10 バスピン協会にて確認）

※また、サーブの球をノーバウンドでタッチすることについては、レシーブ側のミスとする。

（R01. 10 バスピン協会にて確認）

- ・故意にヒットを防ごうとしたときは、ヒットと判定。に変更。

協会ルールはすべてヒットと判定するが、田辺市の審判員からは故意にヒットを防ごうとした時しか反則を取っていないとあったため。（R06. 1. 10 第2回実行委員会で統一）